

会 議 録

1 会議名

第1回 上越市教育の日制定記念事業実行委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 委員長・副委員長の選出（公開）
- (2) 上越市教育の日制定の経過について（公開）
- (3) 上越市教育の日制定記念事業（案）について（公開）
- (4) 今後のスケジュールについて（公開）
- (5) その他（公開）

3 開催日時

平成26年5月29日（木）午前10時から11時30分まで

4 開催場所

教育プラザ 201会議室

5 傍聴人の数

なし

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：12人中 11人出席

戸北凱惟、天野和孝、安田詮秀、大山賢一、渡邊千一、荒木佳樹、大嶋慶子、
今井一郎、河村一美、市川裕光、中野敏明

・事務局：野澤教育部長、吉田学校教育課長、笹川生涯学習推進課長、中西文化行政課
長、國元体育課長

早川教育総務課長、鬼木参事、鈴木係長、渡邊主任

7 発言の内容（要旨）

(1) 委員長・副委員長の選出

委員長に戸北委員、副委員長に天野委員を推薦する意見があり、全員承認し選出。

(2) 上越市教育の日制定の経過について

戸北委員長：経過がこのように進んできたことについてはいかがか。また、規則について、意味不明な部分はないか。

(意見質問なし)

(3) 上越市教育の日制定記念事業(案)について

戸北委員長： まず、シンボルマークを作成するとのことで、質問、意見はあるか。

大山委員： シンボルマークを作るのは賛成である。先ほど、決定するまでの流れをご説明いただいたので分かったのだが、優秀作の3点に選ばれた3人の方を11月1日の式典の時に招いて、表彰式をすとか、そんなところを考えているのか。それから、副賞を付けたいと思った。例えば、水族博物館の1年間利用無料券や、総合博物館の1年間無料券など、何かそういったご褒美を付けたいと思うのだが、事務局はどう考えているか。

事務局： 今、ご提案をいただいた。最終的に最優秀賞、優秀賞については、11月1日の記念式典でシンボルマークを公表するとともに、その方への表彰も考えている。それから、副賞については、予算を見ながらになるが、お出しできるように用意をしている。まだ、どのようなものにするかまでは決めていないが、今、いただいた意見を踏まえながら進めていきたいと考えている。

渡邊委員： 最優秀作1点、優秀作2点ということだが、いつも思うことだが、「優秀作」は、世の中に出ることはあるのか。

事務局： 最優秀作はデザインを公表するものであり、優秀作についてもせっかく3点の中に上がったものなので、結果についてお知らせすることも必要ではないかと考えており、委員の意見を参考に検討したいと思っている。

大嶋委員： 11月1日にこのマークをお披露目するという話であるが、旗などを作成するのか。どのような形で披露するのか。

野澤部長： 今、おっしゃっていただいたように、シンボルマークの方針にもあるように、分かりやすく表現をして、明るく親しみのあるものを作るのは、教育の日を分かっていたくためなので、今おっしゃった旗であるとか、さまざまな媒体を今後予算の中で考えていきたいと思っている。まず、今年は策定が中心になると思う。来年以降の活動の中で、予算化して考えていきたいと思っている。また、合わせてマークの状況にもよるので、またマークが決まった時に委員からアイデアをいただきたいと思う。

大山委員： 旗の話でなるほどと思ったのだが、市はお金がないのだと思うと、例えば11月の広報の1日号と15日号に、全頁の頭のところにマークを印刷してもらおうとか、毎年そういった形で印刷してもらおうとか、お金がかからない方法で市民に知ってもらう方法があると思うので、工夫すると思った。

川村委員： 募集要項の中に、どういった形で使うと記載しないと分からないと思う。

野澤部長： 承知した。

安田委員： 県はこのような動きはしていないのか。

鬼木参事： 今のところ県でこういった動きがあるとは聞いていない。全国レベルでは多くの自治体でこのようなことが行われている。

戸北委員長： ログマーク作成の動きということか。

安田委員： それもあるが、教育の日としてである。

中野委員： 上越市の取組は平成19年からだと思う。退職した校長先生の会があり、そこで自分たちは退職したけれども教育のことをずっと見ていこうということで提案され、市民の運動として盛り上がり、巻き込まれて大きく広がり、議会や教育委員会も乗せていただいた。こういった流れの事例は少ないようである。やはり県の場合はその時の首長がやるぞ、ということで、どちらかというトップダウンで決まるということが多い。そういう意味では、市民運動として盛り上がってきたということは、すごく価値のあることだと思っている。上から降りてきたものはなかなか続かないというようなことも聞くので、すばらしいと思う。

戸北委員長： 都道府県単位で35の団体が行っている。府は入っていない。そのほか、120団体程度の市町村がやっているとのことである。

鬼木参事： 県内の状況だが、見附市と胎内市がこういった取組を行っているが、県内で規則や要綱の根拠を持っているのは上越市が最初になる。

戸北委員長： ログマークについてはどうか。様々な意見が出たが、それをどう使うか、最優秀賞以外の作品はどのように扱うかなど検討していただきたいと思う。どういった募集の仕方をするのか。

中野委員： 宣言や合言葉があるが、そういったものを含め、宣言の看板を作ればそ

ここにロゴマークが付くだろうし、あと、旗の効果も結構あると思う。

今、キャリア教育で職場体験夢チャレンジをやっている。受け入れ先の企業でマークが立つと、今、ここで働いていると分かる。お金はないのである。なので、ロータリークラブなど、皆様から寄付をしていただき、最初の時はタオルを寄贈していただいた。そういった方法もあり、市民に浸透する方法を市でも考えてほしいと思う。

戸北委員長： 今までの資料2にかかる議題で、ほかに意見、質問は無いか。

(意見質問無し)

戸北委員長： 引き続き、資料3の内容について、事務局から説明願いたい。

鬼木参事： 資料3をご覧いただきたい。教育の日にかかる合言葉の策定についてである。策定の目的は、市民総ぐるみによる人づくりに向けた機運の醸成を図るため、上越市民として大切にしたい規範や心情を「合言葉」として策定する。

この合言葉の基本的な考え方が資料に3点ほど示しているが、上越市の歴史、風土を踏まえ、子どもたちに受け継いでいきたい思いや願いを込め、大切にしたい規範や心情を表すもの、大人や子どもにとって、目指す姿が明確であり、行動や取組の指針となるもの、市民の誰もが共有できるよう、分かりやすくメッセージ性があるもの、である。

具体例として資料に綴っているが、福島県のあいづっこ宣言、続いて上越市義の心。これは昨年度開催の教育の日制定検討委員会にてマハヤナ幼稚園の石田さんからご提案いただいたものである。また、茨城県の「金のルール」がある。そして、県内の事例としては、燕市の8つのチャレンジとして、大人用、子ども用と分けて取組んでいる。最後に、山形県の7つの約束である。これらを参考に見ていただきたい。

続いて、策定の方法についてだが、シンボルマークは公募としたが、この合言葉については、「道徳性を含むもの」という部分もあり、公募ではなく、実行委員会の委員から案を作成していただく形で考えている。県においては、キャッチフレーズや標語などは公募しているが、合言葉の類は、それぞれの部署で作成しているのが一般的である。

具体的な手順としては、資料にある①「上越市教育の日」に関わる「合言葉」の策定。これは本日、方針の審議をしていただくものである。続いて②実行委員による合言葉(案)の作成と検討は、委員に宿題のような形でお預けし、1枚に私案としてまとめたものを作成をいただき、事務局に6月に送付していただきたい。お願いの文書は、後日委員のお手元に届ける。委員から案を収集した後、事務局で委員の案をまとめ、一覧表にして、再び委員にお届けしたいと考えている。

委員から一覧表を見ていただき、この実行委員会で審議にふさわしい合言葉についてのご意見を事務局宛てに送付いただきたいと思う。事務局はそれを踏まえ、実行委員会で審議する案として絞り込んでいきたいと思う。絞りこんだ案については、適宜、教育委員、市長の意見もいただきながら進みたいと思っている。そして③第2回教育の日制定記念事業実行委員会(8月上旬を予定)で、絞り込んだ「合言葉(案)」について審議し、案をまとめたいと思っている。

最終的には、教育委員、市長の意見を踏まえ決めたいと思っている。

戸北委員長： 今の説明について、意見、質問はあるか。

天野副委員長： 資料にある「上越市義の心 スローガン」というのは、公表されているのか。

鬼木参事： 公表されていない。

天野副委員長： 資料に左右されてしまいそうだ。

中野委員： 例えば、燕市の「児童・生徒用」と「大人用」は、同じ意味の言葉でも、それぞれの立場で言い方を変えている。一本化して作るのか、こういった形で2本立てにするか。

鬼木参事： 文面的に見ると、「あいづっこ宣言」や「上越市義の心」のように大人も子どもも同じように取組む大事なものだという表現で作っていただけたらと思う。

中野委員： その通りだ。大人も子どもも同じ表現にしたほうがよいと思う。

野澤部長： 委員からいただいたものを一覧にしてお返しすると説明があったが、それはつまり、お互いに案を見せ合う形になる。そこは事務局で整理して、

例えば、事務局で案を少しまとめ変えてお示しする、つまり、アイデアをいただくという考えにさせていただき、少しキーワードだけでもいただくような形でも、どちらでもよいと思っている。

各委員の意見をいただいておりますのは酷かなと思う。事務局で整理して、案をいくつかまとめてお示しする。お気持ち、キーワードなど、思いを伝えていただくということで、もちろん書き切ってもらいたいことは構わないが、そういうことだと理解していただきたい。

戸北委員長： 各委員とも、部長の説明内容は理解したか。たたき台を作るとのことか。

鬼木参事： 気楽に、完成したものでなくても構わないということである。

戸北委員長： 宿題は出るようだ。

野澤部長： 夏休みの宿題も白紙で提出することは有り得る。

戸北委員長： アイデアはずっと残るので少し気が重い。おそらく、教育長がお考えになると思う。各委員とも、どんどんアイデアを送ってほしい。

天野副委員長： 一つ確認させてほしい。「義の心」は大きなテーマなのか。

鬼木参事： いいえ、それは石田さん個人の案である。

戸北委員長： そのことについては議論していない。

荒木委員： 先ほどシンボルマークの話があったが、合言葉との関連性はないのか。

鬼木参事： 合言葉の方が先行するのが1番よいのだろうと思っている。選考の過程ですらしている。合言葉の方が選考する過程で煮詰めていくので、シンボルマークを選ぶ過程で合言葉はだいたい決まってくるので、合言葉の趣旨に合っているかがシンボルマークを選ぶ視点になってくるかなと思っている。シンボルマークを作る前に、こういう合言葉がありますということは考えていない。

戸北委員長： 各委員よろしいか。分からない場合には、事務局へお尋ねになり、お考えいただければと思う。よろしく願いしたい。

続いて、資料4になるが、記念式典実施計画である。これについて、事務局より説明願いたい。

鬼木参事： 記念式典の期日は、11月1日午後2時から4時15分まで、上越文化会館大ホールにて行う予定である。次第は大きく1部、2部の構成で行う。

その前に、市P連の式典を行い、20分間の休憩を取りながら、式典の入替えを行う。

記念式典は、今のところ資料のとおり次第を考えている。開会の後、主催者のあいさつ、来賓のあいさつ、上越市教育の日制定趣旨の説明、合言葉の紹介の後、シンボルマークの発表、表彰を行う予定である。

続いて、第2部の記念講演だが、講師の紹介、講演は教育評論家の尾木直樹氏から70分程度の講演をいただき、質疑、お礼の言葉の後、閉会の予定である。できるだけ多くの市民から来場いただけるよう、広報に努めたいと思っている。幼稚園、大学まで大勢の方々に声掛けしながら、参加できるような計画をしている。

戸北委員長： ただいまの説明で意見、質問等はないか。

(意見質問なし)

戸北委員長： この計画については了承ということで進めてもらいたいと思う。

(4) 今後のスケジュールについて

戸北委員長： 続いて、今後のスケジュールについて、事務局より説明願いたい。

事務局： 記念事業の今後のスケジュールについてだが、本日は第1回目の実行委員会の開催ということで、合言葉、シンボルマーク、式典について説明させていただいた。先ほどの合言葉の部分で説明させていただいたが、今後は、合言葉の作成を先行して行いたいと考えている。来月、各委員からアイデアをお寄せいただき、それを事務局で集約し、案を整える形で、8月上旬に第2回の実行委員会を開催したいと思っている。そこで合言葉について時間をかけて審議いただきたいと思っている。

シンボルマークについては、これから市民に公募するための募集要項や広報の記事掲載、そういった準備を経て、7月末を目途に、作品を集めたいと思っている。そして、8月の実行委員会の時に応募のあった作品について委員の皆さんにお示しして、その中で委員が良いと思ったものを事務局までお知らせいただき、10月上旬に開催予定の3回目の実行委員会で、合言葉とマッチするようなシンボルマークを絞っていただく形として、そのような流れを考えている。

式典、記念講演については、今ほどの概要説明のとおり、合言葉、シンボルマークの作成と同時進行で詰めて行きたいと思っている。秋頃に広報を利用しての周知を経て、11月1日を迎えようと思っている。

また、教育の日に関する規則にもあるとおり、11月は教育を考える市民の月間として位置付けている。資料のスケジュールには無いが、この月間に参加、協賛する事業についても、別途、スケジュールのお知らせを考えている。12月には記念事業、月間の取組状況を集約し、各委員にお示ししたいと考えている。

戸北委員長： 意見、質問はないか。

天野副委員長： 学び愛フェスタは午前だけの開催となるのか。

鬼木参事： 今のところ、今年は午前日程を中心に教育プラザにて内容を縮小する形で行いたいと考えている。

荒木委員： シンボルマークの募集要項はどの程度配布する予定か。それぞれの高校に配布する予定なのか。

事務局： 広報紙やホームページだけでなく、小・中・高の各学校、保育園、幼稚園にも募集要項をお配りして、多くの皆さんからアイデアをいただきたいと思っている。締め切りは夏休みに入る前を予定しているので、近いうちに各学校にご案内させていただく予定である。

戸北委員長： 大学も対象となるのか。

事務局： もちろん、大学も対象となる。学生からも応募いただければと思う。

戸北委員長： デザインクラブや高等学校もある。

大嶋委員： 11月1日の記念式典と講演の案内としてチラシは作る予定はあるか。

鬼木参事： 早目に作成したいと思っている。

大嶋委員： 学校なら全校配布になるのか。

鬼木参事： 予算の関連もあり、どの程度の印刷が必要かは精査中である。

大嶋委員： 市P連でも10周年の式典を決めているところで、いろいろと聞いてくれと言われている。10周年のチラシも合わせて1枚にしてもらえるかということもあり、検討してほしい。

戸北委員長： 11月は行事が多数あるので、その辺のことも早く決まった方が良い

と思う。

渡邊委員：事務局から中心に提案をいただいたが、確認したいのは、記念事業として行うのは合言葉の制定、シンボルマークの選定、式典・講演会だけか。と言うのも、高田開府400年のイベントについて、後出しでの依頼が多数ある。

それも、小・中学校への依頼が後になって来るので、非常に対応に苦慮している実態がある。これについては、もうこれだけなのだということを確認していただきたいと思う。

鬼木参事：基本的には今日説明した内容のみと考えているが、後は記念事業の周知や当日の式典への参加の呼びかけをお願いする程度と思っている。後出しにならないよう十分に心がけていきたいと思っている。

野澤部長：いずれにしても、教育のための日の出来事に、教育委員会がご迷惑をおかけしてはいけないので、十分配慮する。

中野委員：それに関連して、記念式典の第一部の部分で、例えば子どもの参画として、合言葉の紹介の時に、子どもが出て喋るような、そういったことはあってもよいのではないか。

野澤部長：それは演出としてありだと思う。

安田委員：シンボルマークなどを生徒が考える場合、夏休みの自由研究として扱ってもよいか。

野澤部長：学校と相談する。

戸北委員長：今日の議題をまとめて、意見や質問はないか。

中野委員：今年是最初の年なので、記念式典を行うが、来年以降、11月1日は特別な事業は行わないし、こういった実行委員会形式のものも行わないが、できれば各学校や職場で、幼稚園や保育園もみんな含めて、何か1つの事業を、平日であれば、例えばその日に授業参観してくださいということもあるだろうし、祝日や休日なら、その日をどういった日にするかである。家庭での教育を考える日だとか、その日によっては授業日に切り替えて、要するに学校ごとに何か取組をしていただくようなことがあるといいと思う。

例えば、直江津小学校が今までも教育コラボ学び愛フェスタの日に、「直江津小学校教育の日」として様々な授業参観を行ったり、保護者を集めたり、そのような取組をその日に当てていた。例えば、そのようなことを自主的に主体的に行い、意識付けをしてもらおうといったことを広めてもらいたいと思う。校長会の皆さん、保育園、幼稚園の皆さんにもそのようなことをしていただければと思っている。それが私の希望である。

もちろん、教育コラボ学び愛フェスタについては、今までどおり行ってもらえたらと思う。

戸北委員長： 中野教育長の願いのような内容だったが、確かに、事務当局も大変だと思うが、そういう意味では、学校現場にはなるべく負担をかけないように配慮しながら、且つ、自主的に何かをお願いしたいと思う。今年は高田開府400年で何かと忙しいということがあるが、これはずっと続くので、疲れないようにやるべきだと思う。よろしくお願いしたい。

あと、議題を通して他にないか。特に意見が無かった市川委員はどうか。

市川委員： 最後になり聞いて恐縮だが、私たちは1年ごとに推進委員から引き継ぎをしているのだが、そもそも上越市教育の日において、上越市にとって教育とは何なのかと思っている。私は上越青年会議所のまちづくり団体の代表をしており、学校現場の専門でもないし、まちづくりなので、歴史・文化、それから経済、産業、そういったものを含めての団体活動をしており、その中で子どもたちに地域のことを知ってもらおうとか、そういうものが教育だと認識しているのだが、「上越市教育の日」元々の教育の定義というのが学校教育現場でのことなのか、本当に広い意味で捉えていいのか、それにより立ち位置も決まるし、合言葉にしても上越市民として大切にしたいと思っているので、そこをもう一度説明していただければ、自分でも、合言葉の考えやシンボルマークについて知り合いなどにどのような意味で募集しているのだということを伝えられるので、そもそも話であるが、少し教えていただきたいと思う。

戸北委員長： 私どももずっと議論してきたのだが、簡単に言えば1年で1日でもいいから、教育、学習、学びについて家庭で話し合いをしましょう、簡単にそう

いったスローガンのようなことをずっと言い続けてきた。地域、学校を含め、家庭も含めだと思う。学校にお任せではなく、そういった感じである。青年会議所も様々なことを行っているの、そのようなことも含まれるのではないか。あまり固く考えなくていいと思う。

市川委員： 皆一人一人の立場の中で考える教育ということで、例えば会社であれば従業員の立場でもいいということか。

中野委員： 「教育・文化都市上越」という考え方で、教育は広いと思う。学校教育もあるし、家庭教育もあるし、社会教育もある。市川委員の質問だとそれは社会教育になると思う。市では学力状況調査を昨年行い、結果を見ると、テストの点数ではなく意識調査の部分で、「あなたは地域の行事等に参加していますか」という問いに対し、回答は「はい（そう思う）」「どちらかというと思う」「どちらかというと思わない」「そうは思わない」の4つの選択肢によるものだが、「そう思う」という答えが全国では36%、上越市では69%なのである。県も全国よりは高いのだが、上越市は突出しており、「どちらかというと思う」を合わせると9割である。これは小学校の結果である。中学生は部活をやっているの、小学校ほどではないが、全国では17%、上越市では26%、「どちらかというと思う」を合わせると55%くらいになる。県も全国も50%にはいっていない。40%程度である。

これは、地域で地域の子どもを育てようとする地域青少年育成会議の取組の成果だと思っている。地域の行事に積極的に子どもたちが参加しているということだと思う。地元の新聞には、いろいろと紹介してもらっているが、非常に増えてきていると思う。そういったことは必ず教育の土台になり、地域の歴史や文化に触れることが人間としての土台になる。単に点数で現れるものではなく、将来ふるさとに誇りや愛着を持つということに繋がる。そういう成果が出ている。

戸北委員長： 今井委員、意見はあるか。

今井委員： 正直言って、小学生、中学生は言葉づかいが非常によくない。小学生もこれまでどおりクラブ活動はあるのだが、私が行っている頸城の小学校で

は、ニュースポーツを、今年の6月から8回シリーズで9月までやることで決定した。そういった中で私は行くわけだが、小学生も中学生も非常にコミュニケーション能力が乏しく、また取りづらくなっているようである。相手と話すことが非常に苦手で、スポーツを通じながらやろうということで、今年の6月4日からスタートするのだが、66人の委員により、各小学校、各中学校にお願いをして、午後2時50分～4時までやることになっている。出前講座としてかなり出ているので、板倉区あたりではかなり利用されている。ぜひともそういう形で取り組んでいきたいと思っている。

戸北委員長： 意見に感謝する。様々な意見があったが、上越市をよく知るため郷土を愛するとか、やがて子どもたちが文化創造というものに発展していけばよいという思いがあるので、各委員にはそれぞれに多方面でお話ししていただければと思う。

(5) その他

事務局： たくさんの意見、提案をいただき、感謝申し上げます。次回の実行委員会の日程について、次回は、8月上旬に開催したいと考えている。その時期は学校は夏休みであり、ご都合はあるかと思うが、皆様のご都合に合う日を調整したいと考えている。

8 問合せ先

上越市教育委員会教育総務課企画係

TEL：025-545-9243

E-mail：kyouikusoumu@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の資料も併せてご覧ください。